

令和2年度福祉入門講座「青い鳥セミナー」

「ゆぐち買い物支援サービス」についての質疑

質問：毎月同じ曜日（日）に実施しているのか。

回答：毎月第4金曜日に設定して実施している。

利用者が覚えやすく、実施する側が運行計画を立てやすくしている。

質問：湯口の問題点を洗い出すのに小・中学生が参加したとのことだったが、どれぐらいの参加があったのか。

回答：地域福祉懇談会には小学校4年生以上と中学生各学年2～3人の参加であった。

小さい子たちの要望は質が違っていて、遊び場がほしい、下校後に寄る場所が欲しい等。農協が場所を貸してくれる話になったが、見守りの人員配置が追い付かず保留になっている。

夏休みに小学生への学習支援「宿題やろう会」を実施したのだが、もっと勉強する機会を増やしてほしいとの要望があった。冬休みは実施に至らず、今年の夏休みも実施したかったが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。昨年度は80人ほどの参加があり、勉強の後は手品を見たりして、宿題もほぼ終わり大変喜んで帰っていただいた。

今年度は「宿題やろう会」を実施できなかったので、代替として小学生のいる家庭に花苗を配布し、植物の観察・教育を行うことに予算を使おうと思っている。これは湯口を花の街にしたいという子どもたちの意見を参考にしたものである。

質問：買い物支援の利用料は取っているのか。財源の確保は今後も可能なのか。

回答：こぶし苑の事業として実施しているため、利用料は無料。こぶし苑の送迎時間外に実施している。

2年間は助成金が支給されるため、利用者エコバッグを配布したり車両に宣伝プレート掲げたり、利用確認の通信費に使用している。その後は民生委員等のボランティア活動となる。

質問：花巻市で行っている地域生活支援（総合事業）とは別物か。

買い物支援の頻度が月に1回では少ないように感じるが。

回答：別物であり、花巻市社会福祉協議会湯口支部の事業として実施している。

回数は増やしたいと考えているが、お願いする立場もあるので今のところ月に1回の実施となっている。それ以外は帰省してくる家族や親せきをお願いしているのが現状である。

利用者を増やそうと勘案していたところ、新型コロナウイルスの関係でバスの座席間隔を開けなければならない状況になってしまったので、今のところ利用者を増やしていない。お盆のあった8月は月に2回運行した。

ひとり暮らしで車のない方を対象としており、対象者は82名いると把握しているが、現在の利用は9名。

それ以外の方は週に2回、地域を巡回している農協の移動販売車「とくし丸」を利用している。湯口地区以外も含め130件ほどの利用があると聞いている。

移動販売車での買い物は、商品単価に10円が上乗せされるが、10点購入したとしても100円。往復のバス運賃や商品の積み下ろしなどを考えると、私たちのしていることは少しでも役に立つかなあと思っている。

現状は月1回、こぶし苑にお世話になっているが、回数を増やすのは今後の課題である。湯口地区には他にもバスを所有している法人があるので、今後協議できればと思っている。